

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第58号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Pages 1~2.....

巻頭言

地球温暖化傍観

木庭元晴

Page 2.....

学窓から

私の海外旅行記

土岐里美

Page 3.....

実習調査報告

沖縄県今帰仁村

での実習調査

風野宗平

Page 4.....

日帰り巡検報告

伏見巡検レポート

宿利広和

Page 5.....

学窓から

一人っ子政策と

小国志向

董 振江

橋本征治先生、

2009年春ご退職

Pages 6~7.....

研究ノート

近代都市形成にお

ける近世都市

要素の影響

松井幸一

Page 8.....

院生・学部生の業

績

Page 9.....

教室だより

行事予定

会費納付のお願い

Page 10.....

随想

桃太郎に学ぶ地理

学を

目崎茂和

卒業生・修了生

からの一言

Pages 2~5

過去数十年の科学的観測についてみても、この数年の間に最高または最低気温が比較的多くの地点で更新されている。同様に記録的な豪雨または干魃、氷河の融解などの現象もある。つまり、地球の気象はこのところ極めて不安定である。これは、産業革命以来、石油などの化石エネルギー資源を多量に消費した結果、地球での炭酸ガスと酸素ガスの収支バランスが崩れて、炭酸ガスが増大してきた結果とされる。何度も国際会議が開かれて、この事態を生み出した先進国に対して、場合によっては実現不可能とも思える削減義務が次々に突きつけられている。

昨年末に、インドネシアバリ島で、国連気候変動枠組み条約第十三回締約国会議（COP 13）が開催された。京都會議（COP 3）で決まった約束期間終了の2012年の後の新たな枠組みを2009年末までに完成させる必要があるが、COP 13ではそのロードマップ（行程表）を作るのが主な目的であった。概してEUの先進諸国の脱温暖化社会への志は極めて高かった。EUや途上国の主張はこうである。先進国は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の科学的成果を反映させるために、2020年までに1990年比で25~40%削減を盛り込むべきであると。予定より1日遅れてバリロードマップに合意が見られ閉幕した。先進国の削減数値の明記、途上国での排出抑制などについて合意に至らなかったが、IPCC報告書の関連部分を脚注に盛り込む妥協もあった。

日本は60年代の高度成長期の公害と70年代

のオイルショックを克服するために多くの技術を開発してきたが、炭酸ガス削減率の基準が1990年だから、より高度の削減技術を生み出すのはかなり厳しいという議論がある。ところが、EU先進国の覚悟はこういう議論を超えている。EUは2020年に自然エネルギーの利用割合を20%にするとすでに決めている。2040年には世界のエネルギーの半分を自然エネルギーにすることが可能としている。ここでいう自然エネルギーとは再生可能エネルギーのこと

で、太陽光、風力、地熱、水力、バイオマス、海洋からのエネルギーをいう。たとえば、ドイツでは2007年現在ですでに自然エネルギー発電比率は12%に達している。これに対し日本の2014年度の目標が1.63%であるから余りにかけ離れている。

EU先進諸国の自然エネルギー利用の技術が日本より高いからこういう事態になっているのではない。例えば太陽光発電には太陽電池が使われるが、その有力企業は日本のシャープである。ドイツなどの成功の理由は「固定価格買い取り制度」にある。電力会社に割高な価格で自然エネルギーを買い取るよう義務づけ、逆ざやを電力料金に上乗せ（約3%）することで埋めている。つまりは消費者が負担している。これは環境税の一種と考えて良いだろう。こうすることで電気を使って生産される製品にも価格転嫁される。

この原稿を書いている12月中旬現在、ガソリンは実質150円/Lと高い。石油の高騰が輸

地球温暖化 傍観

木庭 元晴

卒業生・修了生からの一言

安宅真生
地理学に入ってとても楽しかったです。ありがとうございます。

金丸哲士
与論島調査で地理学の本質をつかむことができた。地理学の先生方や友達と出会えてよかったです。ありがとうございます。

久保佳美
この3年間フィールドワークを通してたくさんの人々と出会い、貴重な経験をする事ができました。西洋史か地理か最後まで悩んでいましたが、地理を選んで本当によかったと何度も感じました。ありがとうございます。

上土井 舞
関西大学で地理学を学んで私自身の視野が大きく広がりました。これからの人生にこれまで学んだことを役立てていきたいと思えます。4年間お世話になりました。

高島正樹
私は地理学を通して物事を疑うこと、考えることの大切さに気づかされました。地理学のテーマは身近なところに無数に転がっていることがわかり、世界をより広く見るようになりました。ありがとうございます。

送費を高め、その結果、商品価格も上昇する兆しがある。これまでは石油価格が比較的安く抑えられてきたので、国内でも例えばジャガイモが北海道から鹿児島へ大型トラックで輸送されるのは当然であった。そういうことは、温室効果ガスの排出量を抑えるためには許されなくなるであろう。地場産物消費が優先されるであろう（地産地消という）。政治主導もあるだろうが、排出量または環境税の観点で市場価格に反映されることになる。価格＝原材料＋加工代＋輸送料、という式の中で環境税を比較的に多く含む輸送料の比率が高くなる。

EU 同様、日本でも、政府も企業もこのことに早く気づき、大幅な転換の局面を自ら選ぶべきである。これまでの価格は単純に言えば、需要供給曲線で決まったのであるが、これからは排出削減の世界的な潮流に従う、言い換えるとこれまでの人類の展開の継続のための選択の連鎖が重要になるだろう。日本ではこの形をほぼ

具現しているのが自他共に害するタバコの価格である。これはガソリン、高速代、肉、大型乗用車、さらには衣食住全般に展開してゆくことが予想される。食品など生活の基本部分については配慮がなされるであろうが、贅沢品については価格に環境税が転嫁されてゆく、つまりはあらゆるところに省エネの経済学がはびこることも考えられる。

こういう観点は性急な印象を与える。とはいえ、ぼくはここ10年ほど前から肉食をほぼ止めた。肉食が余りに食物連鎖の点で悲しく食物消費の無駄が多いという点がある。荷物を運ぶときや学生指導や研究のための調査には車を使っているが、自転車通勤に変えて1年が過ぎた。ガソリン価格が上がったから自転車という行動はいかにも姑息である。ぼくは価格の上がる前から自転車通勤を始めていることを申し添えておく。

(本学教授)

学窓から

私の海外旅行記

土岐 里美

「お金をおろすのを忘れた・・・」私がこのことに気づいたのは、乗り継ぎのホーチミン空港に着いたときだった。初めての一人旅、カンボジア5日間。所持金は1万5千円。

最初は大丈夫だと思っていたのだが、観光地のため予想以上に物価が高い。ホテルは格安ゲストハウスに泊まり、食事は1日2食。最終日に空港に着いたときの所持金はわずか2ドル。「なんとか日本に帰れる！」そう思っていたのだが・・・空港使用料25ドルのことをすっかり忘れていた。これを払わないと飛行機に乗れない！空港内の銀行の方と航空会社の日本人スタッフの方を巻き込んで、なんとか現地にある日本の旅行会社に連絡がつき、特別にお金を貸してくれるということになったのだが、乗る飛行機の離陸30分前。離陸10分前に旅行会社の人が空港に到着し、「日本に帰ったらすぐに送金してください」と言われ、お礼を行って急い

で搭乗ゲートへ。しかし、ゲートには人だかりができており前に進めない。きっともう飛行機は離陸態勢に入っている・・・もう間に合わない！と思い、「すいませーん！乗せてくださいーい！」と言いながら、「待て！」「落ち着け！」という周りの乗客の声も聞かず、人だかりをかき分けゲートから外に飛び出した。するとそこを係員に取り押さえられ、「あなたの乗る飛行機は40分遅れています」と・・・。情けなさや恥ずかしさと安心感が一気に押し寄せてきて、私はそこで泣き崩れてしまった。「ほら、同じ飛行機の隣の席よ」とチケットを見せて下さった優しい欧米の方に肩を抱かれながら飛行機に向かう途中、たくさんの人に声をかけていただいた人の優しさと、お金の大切さを生々しく実感した。みなさん、旅行に出かける前はお金の確認を忘れずに。

(本学3回生)

実習調査報告

沖縄県今帰仁村での実習調査

風野 宗平

われわれ3回生は10月2日～10月6日の四泊五日の日程で、沖縄県今帰仁村の実習調査に行ってきた。

僕は今帰仁村民の生活行動を調査する班に参加し、主に村民の買い物や娯楽などの日常生活の行動圏や今帰仁村の人口の転出入の推移などについて調べることにした。調査に行くまでの授業では、生活圏アンケートの作成、聞き取りを行う集落の選定などに時間を費やした。アンケート作りは、予想以上に難航した。というのは、いかに聞きたい事をわかりやすく、漏れなく簡潔にアンケート表に記し、かつできるだけ詳しく書いてもらえるアンケートにするにはどうしたらよいのだろうか、と熟考することとなったからである。

現地では主として聞き取り調査を行った。沖縄に着いた日は、全員で村長さんの話を聞かせてもらい、その後今帰仁城跡を見学して初日を終えた。二日目からは各班に分かれて、本格的に調査を開始した。僕たちの班では、午前中仲宗根公民館で仲宗根区長さんと老人会会長さんの話を聞かせていただき、午後からは仲宗根の住民の方に話をうかがった。その後、北山高校

近くのコンビニ前で現地高校生の生活行動について聞き取り調査を行った。三日目には、午前中に名護市と今帰仁村の不動産屋さんを訪問し、本土からの移住を目的とした住宅購入者に関する話を聞き、午後には二班に分かれて今帰仁の道の駅「そ〜れ」と呉我山集落で聞き取り調査を実施した。調査最終日は、午前中だけ今泊集落で聞き取り調査を行った。アンケート調査表を携えて、実際に聞き取り調査をしてみると、「これも調査項目に入ればよかった」とか「ここはいらなかったな」など、思っていたより穴が多く、もっといいアンケートを作れたのではないかと、後悔などもした。それでも、現地の方々にたくさん話を聞かせて頂くことができたし、また沖縄の人々のあたたかさにも触れられたので、調査は楽しい思い出となった。

当初四泊五日は長過ぎるのではと思っていたが、実際に調査に行ってみると、あっという間に時間は経ってしまった。また、調査しているうちに調べてみたいことが増え、次第に時間が足りないと感じることとなり、長いという感じは全くしなかった。そして何より「地理」の楽しさ、フィールドワークの楽しさを体全体で感じることもできたから、とてもいい経験になった。こんないい経験ができる地理学専修に進み、愉快的仲間や大学院の先輩とともに調査ができて本当によかったと思う。

(本学3回生)



今帰仁村村長・副村長らによる
オリエンテーションの様子

田頭沙織

地理学科に来て、与論島での実習や周囲の人と育んだ絆など、地理学だけでなく本当に色々な事を学びました。同期のみんなや先生方と過ごしたこの4年間は私の宝物です。本当にありがとうございました。

田口史記

この4年間、地理学を学び、すばらしい人やものに出会えて、かけがえのない体験をさせていただきました。特に与論島での調査では今まで触れたことのない文化に触れ、視野を広げることができたと思います。最後に短い間でしたがありがとうございました。

武田和樹

地理学の研究にあたって、多岐にわたる知識・知恵が求められた。地理学は総合力を試される学問だと感じる。及ばずながら自分も知識の幅が広がったように思う。

田橋智美

地理学を選んで私の学生生活大正解でした。一生の友達ができました。又、先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

中島千恵

中崎町に与論島、地理コースではいろんな土地でたくさんのお話を勉強でき、たくさんの人と出会えました。そして何よりも、橋本先生を始め、地理学の先生方3年間本当にありがとうございました。



前野真慶

普通では行けないようないるんなところへ行くことができたので楽しかったです。良い経験になりました。

三宅雄大

地理学と出会えて良かったです。苦労したことも多かったですが、良い経験でした。新たな発見も多く、楽しかったです。お世話になった皆様、ありがとうございました。

白澤武蔵

木庭先生をはじめ諸先生方、地理学の皆様には大変お世話になり、無事前期過程を終えることができました。ありがとうございました。

匡 達伶

大変充実した2年間でした。様々な場所でのフィールドワークを通じて、地理学についてさらに知見を深めることができましたと思います。ありがとうございました。

飼牛敬大

他大学から来て違った視点から地理学を学ぶことができ、もっとここで学びたいと思うくらいさらに地理学を好きになりました。たった2年間でしたが、先生方はじめ、関係者の方々、色々ありがとうございました。

2007年10月21日、私たちは京都伏見への日帰り巡検に行ってきました。当日、私たちは近鉄京都向島駅に集合し、まず駅周辺にある向島ニュータウンを見て回りました。近年、高齢化が進んでいるという先生方の説明のとおり、それに伴う建物の老朽化も見取れました。

次に、京都-奈良間の鉄道の歴史について説明を受けたあと、巨椋池へ向かいました。干拓された現在の巨椋池には農地が多い割に、民家が少なく、干拓地の特徴を見ることができました。

大手筋商店街での昼食後、まず御香宮神社へ向かいました。時代劇のロケ地としても使われるこの神社では、全国的にも有名な伏見の名水を味わうことも出来ました。

次に、明治天皇伏見桃山陵を訪れ、桃山御陵が作られた当時の時代背景や、風水的特徴について話を聞きました。

その後、電車で中書島へ行き、かつては水運の要所であった伏見港公園の水の流れを見ながら、坂本竜馬が襲撃されたことでも有名な寺田屋へと向かいました。そんな歴史的な大事件のあった寺田屋は、今でも人気の宿として利用されているようです。

そして、かつては遊郭であった町並みを見ながら、月桂冠大倉記念館へ行きました。ここでは、記念館の方から月桂冠の歴史や、お酒の作り方などのついでに興味深い話を聞きました。お話の後には利き酒もあり、歴史などの話を聞いた後のお酒の味は格別なものであるように感じました。こうして一日の活動を終え、17時頃に現地解散し、今回の巡検は終了しました。

このように野外巡検は、行く前まではピンとこなかった土地であっても、実際に行ってみて、いろいろな説明や、話を聞くうちに興味がわき、有意義な時間に変えることが出来るもの



だと感じました。

最後になりましたが、この巡検にあたり、様々な資料を用意し、わかりやすく説明してくださった先生方、大学院の方々、どうもありがとうございました。(本学2回生)

原稿募集

以下の原稿を募集しています。

1. 「卒業生だより」：卒業生諸氏の近況報告を募集しています(800字程度)。
2. 「学窓から」：在学中の学部生・院生の方から募集しています。日頃の学習・研究活動の様子をご報告下さい(800字程度)。
3. 「研究ノート」：日頃の研究成果をご報告下さい(図表を含めて見開き2頁、1500~2000字程度)。

「卒業生だより」や「学窓から」にも図・表・写真を添付できます。多くのご投稿お待ちしております。詳細は関西大学地理学研究会までお問い合わせください。

人口問題は、大変重要な地理学のテーマである。日本に来て、よく中国の一人っ子政策について聞かれた。複雑な問題であるから、簡単に説明ができない時が多かった。中国の一人っ子政策は人口問題の良い解決策とこれまで思わなかった。特に、人権の侵害という面について。なぜ子どもを二人以上産む自由がないのか。世界のどこでもあたり前のことが、なぜ中国では禁止されているのか。あまりにも重い問題である。一人っ子政策について理解できないと考えている中国の人々は多いが別の考えを持っている人々ももちろんいる。私は、古代中国の思想家孔子と同じ時代の老子の思想に大変興味がある。老子は「たくさんの小さい国があり、それぞれの国は人口が少なく、すべての国が政治的に強くない、この状態が一番理想的な世界である」と考えていた。つまり、「小国志向」である。この視点から、中国の一人っ子政策を見れば、将来的に、人口がどんどん少なくなると、北ヨーロッパやカナダのように人口密度が低く、豊かな生活をする方向性も

想定できる。

すべての人々が豊かに生活できる条件として、一人当たりの広がりが必要と考える。中国のように人口が多すぎて、自然の緑がどんどん消えていくのは、将来的に不安がある。13億の人口が急激に伸びる経済力を支えているが、一人に当たりの空間と資源はかなり少ない。中国の伝統文化は「のんびりの社会」を望む。激しい競争社会に対しては、いくら経済的に発展しても、幸せを感じることは難しい。もし、中国の人口をアメリカのように3億ぐらいにしたなら、中国も緑が豊かな国になるだろう。ということは、本当の中国は経済的に世界の中流であり広い領土を持つが、伝統文化を守り続け、カナダのような人口の小国になるべきである。

残念ながら、今の中国は経済中心で全力疾走し、社会思想や伝統文化に合わない。今年には世界一の温暖化ガス排出国になる見込みだ。人口が多いからだろう。このように考えてくると、一人っ子政策は適当と考えられる。

(本学2回生)

橋本征治先生2009年春、ご退職

古稀記念祝賀会 2009年3月28日(土)開催、記念号原稿募集

関西大学地理学教室卒業生で、橋本征治先生から教えを受けていないものは誰もいないと思います。1969年4月1日関西大学文学部ご着任。この日は地理学教室開闢の日にあたります。当時、宇田米夫、末尾至行、服部昌之の各先生がすでに着任しておられました。最若年スタッフとして活動を開始され、今に至るまで、地理学徒はもちろん学内さらに他大学でも多くの学生に接し育ててこられました。ご退職は2009年3月31日で、関西大学は40年間の長きに及びます。標記のとおり、古稀記念祝賀会を予定しています。最終講義も開催予定ですが、末尾先生の時のようにその日になるかどうか未定です。ご退職の特集号を考えています。橋本先生との思い出を是非、お寄せいただきたいと思います。電子メールを歓迎します。受付担当は野間先生 noma@ipcku.kansai-u.ac.jp。電子メール利用の環境が無い方はお手紙やはがきでも問題ありません。大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学地理学教室 野間晴雄までお願いします。頂く原稿について下記にまとめます。

なお、祝賀会行事の詳細については、別途御連絡申し上げます。

原稿内容の要件：本文(橋本先生に関連した思い出)、タイトル、お名前、卒業または修了年度。本文字数：900字まで。思い出の写真やスケッチなどを含む場合には、その分のスペース900字の中に確保してください。特集号はA5サイズになる予定です。

思い出の写真：添付ファイルでもプリントでも結構です。プリントで返却希望の場合、応じます。集合写真で一人一人の顔が小さい場合は写真ページの方に掲載したいと思います。お持ちでしたら是非お寄せください。印刷手続きの後、ご返却いたします。

河野俊英

この関大地理学に入学しての6年間は私にとって数多くの「地理」を学ぶことができ、大変貴重な時間となりました。5名の先生方をはじめ先輩方、後輩の皆様、ありがとうございます。

丁 佳潔

2年間皆さんは笑顔で声をかけてくれたこと、一緒に楽しく成長できたこと、心から感謝しています。私の一生の宝になると思います。ありがとうございます。

谷 真理子

2年間どうもありがとうございました。体が弱く先生方にもご心配おかけしましたが、修了できることを有難く、嬉しく思っております。

川合はるな

大学院に進学して、より深く地理の魅力を知ることができました。5人の先生方をはじめ、先輩方に本当に感謝していました。ありがとうございます。

曾我 傑

地理学教室で学んだことや多くの方との出会いは私にとって財産であり、関大で過ごした6年間や今の自分をこの教室抜きに語ることはできません。ここで得た財産や地理学的な視点を今後の人生に活かしていきたいと思えます。6年間大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

近代都市形成における近世都市要素の影響

松井 幸一

はじめに

都市内部の空間は時間の経過とともに様々な形態に変貌していく。これを地域性の観点から分析した研究は多種の都市を対象として古くから行われてきたことであり、矢守の「城下町プランの基軸が地域性にあったから、明治以降に関しても旧地域性に即してそれぞれの変容を追い、かつ市域拡大の過程とも関連させつつ新旧の対比を試みるのが適当」(矢守 1974)との指摘がその必要性を十分にあらわしているだろう。

本稿では岐阜市を事例とし、近代の行政機能集積が都市空間に対して与えた影響を近世都市軸から近代都市軸への変容を基にして明らかにする。

岐阜町の町割と都市軸およびその変容

中世～近世初頭の岐阜町における中心であった岐阜城は金華山とも呼ばれる稲葉山麓に城郭を設置し、西方の平野部に城下町を配置した山城タイプであり、岐阜は典型的中世都市であった。中世城下町の町割りは「豎町」タイプが多いことはこれまでの研究で指摘されている(矢守 1988)。岐阜の町割りも「豎町」である。中世～近世初頭における都市軸は行政中心である岐阜城から七曲口を経て商業中心である本町を通り抜け上ヶ門町に至る通りであり、「豎町」の町割に沿って東西を結ぶ街路上に存在していた。

慶長6(1601)年に城下が加納町に移されると岐阜町には美濃代官が靱屋町裏に置かれた。その後、元和5(1619)年には尾張藩に加えられ元禄8(1695)年に尾張藩により岐阜奉行が米屋町に新設された。町の名前は異なるが、美濃代官の置かれた場所と岐阜奉行が新設された場所は同じ位置である。近世初頭においては未だ岐阜は中世城下町の都市構造を引き継いでおり都市形態は「豎町」であり、奉行所の置かれた米屋町の位置は当時の都市構造に即していえば「横町」に当たる場所であった。これは都市軸上ではない「横町」である米屋町に新たな行政中心の設立が行われたといえる。

「横町」における新たな行政中心の設立は近世初頭までの都市構造を一変させた。表1は承応3(1654)年時の中心商業地区の一部である上竹屋町の家並みをまとめたものである。上竹屋町には39

表1 竹屋町家並

職業	家数
米屋	7
納屋	7
紙屋	6
油屋	4
飴屋	3
たばこ屋	3
酒屋	2
茶屋	2
木葉屋	1
筆屋	1
塩問屋	1
ふこにない	1
借家	1
くすし	1(こうや)

(竹屋町家並改訂より作成)

の家屋があると同時に、町の表通りは問屋が多く立地しており、この地区は岐阜町内の問屋街とも呼べる地区であった。特に納屋と呼ばれた倉庫業者が多く存在していることは上竹屋町一帯が近世の商品流通の拠点であったことを示しているだろう。

近世の都市軸の変容をまとめると以下の3点になる。

- 1 岐阜町内では惣構の中において都市形態が近世初頭の「豎町」から「横町」へと変貌する。
- 2 その変容の要因となったのが城郭から奉行所へと続く一連の行政中心の移動である。
- 3 行政中心の移動は本町一帯から上竹屋町一帯へと商業中心地を移動させる要因となり、新たな都市軸の形成に寄与した。

近代岐阜市における施設集積からみた中心地の変遷

近代の岐阜町における都市軸、中心地の変遷を考える上で大きな役割を果たすのが県庁の設置である。岐阜県の発足当時の行政事務は元笠松県庁舎にて行われていたが、新たに行政区域が広がった美濃全体を管轄する県庁舎としてはいかにも手狭であり利用に限界があった。そこで明治7(1874)年6月に岐阜町に新庁舎が建設された。この県庁の新設に伴って官員の住居も移動する必要に迫られたために38の官舎街が築かれ、県庁と併せてこの地域一帯は官庁街としての基盤を築き後に「司の町」と呼ばれるような諸官庁が集積する司町の第一歩となった。

明治22年の時点では道路および上下水道などを除いた建築物としての公共施設は役場、学校、病院、議事堂、監獄、警察、伝信局、裁判所、火葬場であり22を数える。しかし、官庁街より南方に見られる施設は小学校のみであり公共施設は一定の地区に集中している(図1)。小学校の立地している場所も近世都市軸の延長上にあたる笠松街道沿いである。一方、明治40年になると公共施設自体の数が37と約1.7倍に増加するとともに、従来の施設に加え税務署、農事試験場、看護婦養成所、育児院など施設の種類も多様となる(図2)。また、その分布においても市内全域に広がっており都市域の拡大を示している。都市域が拡大しても官庁街周辺に施設が集中しているのは変わらないが、特徴的なのは官庁街と駅とを結ぶ街路沿いに新たに施設が立ち並んでいることである。これはこの時点で都市軸の形成が起こっていることを示しているといえる。

銀行の分布にみる都市軸の変容

近代の銀行をはじめとする金融機関は都市内の商業中心地付



図1 明治22年公共施設



図2 明治40年公共施設



図3 明治35年、大正5年銀行立地

近に立地する。明治35（1902）年の時点で岐阜市内には8つ設立されており、このうち5つが上竹屋・中竹屋・米屋・大工町に所在していた。この4町は近世城下町範囲内に存在し、特に上竹屋・中竹米屋は近世の中心町屋地区でもあった。この場所に多くの銀行が集中していることは、この時点においても依然として商業の中心地が近世主要町屋地区に存在していたことを示している（図3）。

一方、濃飛農工銀行と美濃貯蓄銀行が上加納に立地している上に、2行が笠松街道より西側に立地していることも注目できる点である。県庁が新設されるまでは都市軸は近世軸を延伸する形（笠松街道上）をとっている。しかし、明治35年の時点ではより県庁側に近い西側よりが発展したため近代都市軸が形成されこの2行は笠松街道より西側に位置していると考えられる。このような銀行の立地分布は明治35年の時点で都市南部への商業中心地移動と都市軸の延伸が徐々に行われていたことをあらわしているだろう。

さらに大正5（1916）年になると銀行の数も大幅に増加するとともに、その立地場所も大きく変化する。半数以上の銀行が笠松街道より西側の街路に立地するようになり近代都市軸の形成が顕著になるとともに市街南部への立地も目立つようになる。

岐阜の交通機能と都市軸

岐阜に加納停車場（後の岐阜駅）が開設されたのは明治20（1887）年のことである。新設当時の停車場は加納町に通じる笠松街道（近世都市軸）沿いであったが、明治21（1888）年には西方へと移動した。

加納停車場の移転は単に立地場所の変更という意味だけではなく、岐阜市内の空間構造が近世都市軸から官庁街形成により新たに形成された近代都市軸へと明確に移行する契機ともなっ

ている。さらに大正2（1913）年に岐阜駅は東海道本線の路線変更に伴い再

び移転することとなる。前回の西方への移転は都市軸が近世から近代へと明確に転換する契機となったが、2回目の移転は南部への移転であり都市軸のさらなる延伸をもたらす結果となった（図2）。

おわりに

本稿で明らかになった事を簡潔にまとめれば以下の2点である。

1. 岐阜では近世、近代においても行政機能の集積により商業中心地の移動が行われた。
2. 近代の行政機能集積は都市軸の変容を促す力を持ち、さらには都市空間の形成にも大きな影響を与えていた。

既往の研究では鉄道の敷設が近代都市構造に対して大きな影響を与えてきたことが明らかにされている（田辺1962）。しかし、岐阜では中心商業地が駅近くに移動するのではなく、駅自体が移転した。今回は省略したが、そこでは様々な論争が行われ官庁街の延長街路上に決定した。近代都市空間の基盤となる近代都市軸は様々な要素から成り立っていたが岐阜のように近代の早い時期から行政施設を集積させていた都市では、行政施設集積も近その近代都市軸形成の大きな要因となっていたと考えられる。今後は様々な事例を検討しさらに都市と都市軸について考えていきたい。（博士課程後期課程）

【参考文献】

- 田辺健一、1962. 日本の都市の地域構造の発達—城下町およびその後身における場合. 文科紀要, p. 55-62.
 矢守一彦、1974. 『都市図の歴史・日本編』講談社.
 矢守一彦、1988. 『城下町のかたち』大明堂.

【論文】

- 岡本訓明・高橋誠一, 2007. 長崎唐人屋敷の景観と構造. アジア文化交流研究第2号, pp. 7-29.
- 片岡 健, 2007. 摂津国茨木の空間構造と交通路. 『よみがえる茨木城』(中村博司編), 清文堂出版, pp. 115-149.
- 片岡 健, 2007. 藩政期土佐国高岡郡新庄川での空間的コンフリクト. 霧生関 43号, pp. 9-19.
- 松井幸一・水田憲志・佐々木孝恵・松原光也, 2007. 医療政策とGISによる可視化支援. PGLab ディスカッションペーパーシリーズ (関西大学) 第10号, 24 p.

【学会発表】

- 岡田良平, 2007. 日本の教育地理学における戦後の変質と展開—城戸幡太郎の『教育景観態』を始点として. 2007年度日本地理教育学会大会 (関西大学).
- 岡田良平, 2007. 学校沿革史からみたラオス農村社会の教育地理学的考察—ビエンチャン特別市サイタニー郡における3村の比較—. 2007年人文地理学会大会 (関西学院大学).
- 小田耕三, 2007. 南九州・沖縄の海士のライフ=ヒストリーにみる移住のプロセス. 2007年度日本地理教育学会大会 (関西大学).
- 片岡 健, 2007. 戦国末期土佐国の集落と生業. 香美史談会平成19年度講演会 (香美市立中央公民館).
- 松井幸一, 2007. 那覇市壺屋地区における水系拝所の考察. 2007年度日本地理教育学会 (関西大学).
- 松原光也, 2007. 交通地域区分によるコンパクトシティ度の分析. 近畿都市学会 (奈良大学).
- 松原光也, 2007. バスマップで見える地域交通の現状と課題. 交通権学会2007年度第22回研究大会 (明治大学).
- 松原光也, 2007. ライトレールを先行事業とした富山市のコンパクトシティ政策. 2007年日本地理学会秋季学術大会 (熊本大学).
- 森田浩司, 2007. メンタルマップからみる高校生の空間認識と地域変化—大阪府池田市を事例として—. 2007年度日本地理教育学会 (関西大学).
- 白澤武蔵, 2007. 考古遺跡 (大阪府) に広く見られる無層理堆積物の堆積環境と人的擾乱の認識. 2007年度地理科学学会春季学術大会 (広島大学).
- 白澤武蔵・千葉太郎・前野真慶・木庭元晴・影山陽子, 2007. 考古遺跡 (大阪府) に広く見られる無層理堆積物の堆積環境と人的擾乱の認識. 2007年度地理科学学会春季学術大会 (広島大学).
- 白澤武蔵・佐藤亜聖・千葉太郎・木庭元晴, 2007. 奈良県下三橋遺跡道路側溝遺構堆積物薄片から得られた堆積構造. 関西大学史学・地理学会2007年度大会 (関西大学).
- 木庭元晴・影山陽子・白澤武蔵・前野真慶・佐藤ふみ・米田文孝, 2007. 考古遺跡産出試料の¹⁴C年代値 ($\delta^{13}C$ 補正済) と考古編年の検討. 2007年日本地理学会秋季学術大会 (熊本大学).
- 曾我 傑, 2007. 台風襲来で露呈した地域交通の課題—JR日南線沿線住民の対応をめぐって—. 2007年度日本地理教育学会 (関西大学).
- 池田大志, 2007. 北海道ニセコエリアにおけるオーストラリア人観光客及び移住者増加による「光」と「影」. 関西大学史学・地理学会2007年度大会 (関西大学).
- の場貴之・野間晴雄, 2007. デジタル地形断面図作成から景観理解への導き—地理教育のデジタル化におけるアナログの重要性—. 2007年度日本地理教育学会 (関西大学).
- の場貴之, 2007. 東北タイ農村における水利用意識の変化. 関西大学史学・地理学会2007年度大会 (関西大学).
- 丸橋由起子, 2007. 訪日外国人観光客の現状と分析—関空での調査に基づいて—. 関西大学史学・地理学会2007年度大会 (関西大学).
- 佐藤ふみ・木庭元晴・小倉徹也・影山陽子・白澤武蔵, 2007. 北摂山地, 河谷埋積礫層からの始良 Tn テフラの発見. 2007年度地理科学学会春季学術大会 (広島大学).
- 佐藤ふみ・田橋智美・古池綱・木庭元晴・影山陽子, 2007. 奄美大島, ビーチロック中の膠結物質から得た¹⁴C年代と安定炭素同位体比. 関西大学史学・地理学会2007年度大会 (関西大学).
- 前野真慶・佐藤亜聖・影山陽子・木庭元晴, 2007. 池島・池内・下三橋遺跡にみられる黒色土の¹⁴C年代. 関西大学史学・地理学会2007年度大会 (関西大学).

教室だより

●伏見日帰り巡検報告

毎年研究会の恒例行事となっている日帰り巡検を昨年10月21日に先生、院生、現役学生合わせて29人の参加者の中で実施しました。

テーマ：伏見と巨椋池―城下町から宿場町・港町への変貌と干拓地開発―

コース：近鉄京都線向島駅―向島ニュータウン（干拓による住宅開発）―近鉄京都線（向島駅→桃山御陵前駅）―大手筋商店街（昼食）―御香宮神社―明治天皇伏見桃山陵（伏見城天守閣跡）―京阪宇治線（桃山南口駅→中書島駅）―伏見港公園―寺田屋（寺田屋騒動跡）―月桂冠大倉記念館（酒造業見学）―長建寺―京阪本線中書島駅（現地解散）

●94回例会（研究例会）

昨年12月8日に94回例会が関西大学以文館4Fセミナースペースで行われました。はじめに博士前期課程学生による今帰仁村における実習調査の報告、その後岡本訓明（博士課程後期課程）「近代日本の歴史的都市にお

ける街路と都市構造の研究」、伊東理（関西大学）「オセアニアの都市をみて」の発表が続けて行われました。また、例会終了後は「すっぽん」で恒例の忘年会が行われました。

●海外出張（2007年8月～2008年2月）

高橋先生：2007年8月28日～9月3日、ベトナム（ベトナム歴史地理調査及びベトナム国家大学ハノイ校にて集中講義〔科研費〕）。

野間先生：2007年8月17日～26日、メキシコ（野外歴史地理学研究会での視察）。2007年9月15日～24日、タイ（ドンデン村調査〔日本学術振興会科学研究費〕、コンケン大学での集中講義）。2007年10月28日～11月4日、台湾（IGC 島嶼地理学委員会での研究発表と巡検参加〔日本学術振興会科学研究費〕）。2008年1月10日～21日、タイ（コンケン大学で開催された国際シンポジウム出席、ラオス・ベトナムの研究者との打ち合わせ〔日本学術振興会科学研究費〕）。

行事予定

◎地理学教室新入生・進学生歓迎会

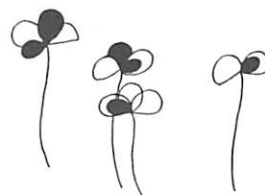
2008年4月24日（木）に地理学教室新入生・進学生（学部2回生）、大学院博士前期・後期課程新入生・進学生）歓迎会を予定しています。

◎春のバス巡検

日程は2008年5月31日（土）～6月1日（日）、巡検行き先は鳥取県智頭・岡山県津山方面を予定しています。奮って御参加下さい。

◎地理学実習調査旅行

今年は長崎県壱岐市で実習調査を行います。日程は2008年10月6日（月）～9日（木）の予定です。担当は高橋先生・野間先生の予定。



会費納付のお願い

関西大学地理学研究会では『千里地理通信』発行をはじめとする研究会活動を維持するために、会員の皆様に年会費1000円を納付いただいております。今回お送り

する『千里地理通信』に「郵便振替振込書」を同封致します。大変お手数ですが、お近くの郵便局から為替でお振込いただきますよう、よろしくお願ひします。

随想

桃太郎に学ぶ 地理学を

目崎 茂和

日本人に、もっともよく知られた「もの語り」,「おとぎ話」,「民話」となれば、やはり「桃太郎」ではなからうか。どんな時代が来ようとも、日本人から「桃太郎」の人気は、消えることはなからう。それは、「鬼退治」という痛快な正義感や、明快な勧善懲悪のストーリー性だからであろうか。それに「金銀財宝」を奪い返し、鬼の住む地域環境を浄化して、その地域再建のヒーロー伝であり、同時に親孝行ものでもある。道徳など教育「説話」として、桃太郎は、時代を超越する「教育力」をもっているのではなからうか。

そして桃太郎の向かった「鬼」とは、「鬼ヶ島」とは、どんな存在なのか。その「鬼」の設定こそ、その時代を反映してきたし、今次大戦時下の「鬼畜」もそのひとつだし、現代の中国「空中鬼」では、酸性雨ともなる。公害時代の「鬼」は明確だったが、今日の地球環境問題にあっては、鬼の設定と退治解決プロセスこそ環境政策の目標なのではないか。

これまで学問的には、民俗学・文化人類学や国語学などからのアプローチもあるが、地理学を学んでくると、これまでの桃太郎や鬼の本質が、より明解になるのでは、なからうか。ただし、地理学といっても、伝統的な地理学といえる「風水学」からの構造分析が重要だ。風水盤「羅盤」による構造と展開で、日本の「桃太郎」を解明したい(図参照)。この図で中央部の円内の「火」と示されている部分は赤(朱雀),「金」は白(白虎),「水」は黒(玄武),「木」は青(青龍)。

☆ なぜ、「桃」太郎でなくては、ならないか。

桃の実(子)は、八卦「坤」(母)であり、南西で、五行の南(火・夏・朱雀)と西(金・秋・白虎)で、赤-白の中間色「桃」で、「人門」(南西)の立秋(金)土用です。この対角の北東が「鬼門」の立春(木)土用です。桃の漢字は、「木(春)と兆」で、桃の花(桃節句)はこの鬼門を越さなければ咲きません。節分行事の「鬼退治」も同根です。

☆ 黍団子がないと、支援がえられなかったか

桃太郎が「鬼ヶ島」に行くのは「人門」→「土」→「鬼門」の道です。五行の「土」は、黄(き・気)で、



黍(キビ) 黄備・吉備・気備 土
鬼門(陰⇒陽・冬⇒春) 木+兆=桃の花
桃太郎=人間・坤(母)(陽⇒陰) 桃の実

黍は「黄備」「吉備」で、黄色の五穀「火」です。なお五果で「桃」は「金・秋」であり、桃太郎の一人団が、黍の「土」気を得たので、「鬼門」に入れたのです。(図の左下から右上に向かう矢印で表現)

☆ 犬, 猿, 雉(キジ)が、なぜ選ばれたか

十二支の「戌・酉・申」は、すべて「秋・金・西」の動物で、桃太郎の誕生した「人門」, すぐ後に配置するとの考えは、すでに江戸期の滝沢馬琴の本にも書かれています。そうすると、出会いの順の犬・猿・雉の問題です。酉の「鳥」の字ですが、雉(矢と佳)は「佳」であり、朱雀(火の鳥・南)と同じで、八卦からも雉は「離・火・南」に配当されます。

☆ 鬼ヶ島はどこに、秋・金と夏・火の動物を黍「土用」で従えてあと、向かう先には、冬・北・「水」があります。この「水」の河海などの水圏で隔離された先に、立春土用の「鬼門」があるのです。

☆ なぜ、財宝を持って還ってきたのか

桃太郎は、「金」の前に誕生し、犬・猿の「金」を携えて、秋の収穫を得たのです。雉は「火」ですし、財宝を犬や猿のように山車を引いてはいませんね。

(南山大学教授・三重大学名誉教授)

千里地理通信 第58号

2008年3月20日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

Tel: 06-6368-1121(内線4890:大学院生室)

e-mail: moto@ipcku.kansai-u.ac.jp

URL: http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moto/KU_Geography/index.html

郵便振替: 大阪00970-4-81149